

# 彩

## 私と患者のエピソード ～薬剤師（医療事務）の立場から～ クリスマスカードが繋ぐ縁



ある12月深夜に、緊急訪問の連絡がありSさんの自宅に急いだ。その後も訪問を重ねそして12月の深夜在宅訪問から68日目、大好きなご家族とのドライブ中にSさんは静かに最期を迎えた。

「100年ゆっくり生きるのも人生。35年太く、短く生きるのも人生。息子らしく最期を迎えることができました」「夜中お薬を届けてくれたとき、あなた裸足だったわよね～」と深夜訪問のエピソードが笑い話にしてくれた。私が渡したクリスマスカードをSさんは大切にしてくれてたそうだ。

「Sが亡くなってから毎年エンディングノートを書き換えてるの。自分らしい最期を迎えるために。」それから7年後、お父様が脳梗塞で倒れ、危篤の中自宅に戻りSさんの時と同じチームでお父様を看取った。

今でもSさんにクリスマスカードを送りお母様と文通をしている。

「お薬を届けるお仕事は、つらい時もあると思います。息子に笑顔で接してくださり本人も家族もとても心強く幸せでございました。どうか、これからも在宅の皆さまに幸せを運んでくださいますね。」

Sさんにご両親との出会いが、今も私の訪問薬剤師である原点だ。

お名前・ペンネーム YY（ワイワイ）

